



巻頭言



公益社団法人日本分析化学会 北海道支部支部長

坂入 正敏 (北海道大学)

新型コロナウイルス感染症の影響のある時期を務められた、渡慶次 学前支部長(北海道大学)の後、長い歴史を持つ日本分析化学会北海道支部の支部長を拝命しました北海道大学の坂入です。私の所属は材料工学(旧金属工学、冶金)、研究は金属材料の腐食と防食のため、これまでの支部長を務められた皆様と比べるともっとも分析化学に遠いところで日々教育と研究を行っています。支部長をお引き受けするにあたり、自分がなぜ分析化学会に入会したのか記憶を辿ってみました。私が分析化学会に入るきっかけは、21 世紀なろうとしていた、コンピュータの 1999 年問題が取り沙汰されていたところに支部の庶務を手伝うことになったためでした。依頼を受けた当初、分析の研究はしていないから適任ではないとお断りました。しかし、ある先生から SEM-EDS で元素分析やラマン分光などで錆の同定をしているから分析の研究をしていると、風が吹けば桶屋が儲かる的な説得をうけて、承諾しました。それ以来、北海道支部の一員に入らせて頂き、冬季研や冰雪セミナーなどを担当させて頂き、今日に至っております。

私の前の支部長であります渡慶次先生や蠣崎先生の時代は、新型コロナウイルス感染症の中でしたので、学会活動が大きく制限された時期でした。支部の大きな行事に年会・討論会の開催があります。これまでも北海道支部は年会・討論会を定期的に担当してきた。2020 年 5 月の第 80 回分析化学討論会は、蠣崎実行委員長のもと北海道教育大学札幌校で実施予定でしたが、直前に起こった新型コロナウイルス感染症のため、ほぼ準備が終わった段階であったにもかかわらず開催できませんでした。それ以降、多くの学会やセミナーが WEB となり懇親会も WEB での期間が約 3 年ほど

続きました。しかし、このように我々の学会活動に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症も、2023 年に 5 類感染症に移行になり、懇親会や移動、会議など様々な制約がなくなりました。2025 年には、渡慶次実行委員長のもとで、第 74 年会が札幌(北海道大学)で開催予定です。既に、新型コロナウイルス感染症が蔓延する前とほぼ同様の学会運営ができているため、以前に北海道支部が担当した年会(2016 年、田中実行委員長)と同様もしくはそれ以上の方に参加して頂けると思います。年会を成功させるためには、十分な準備が必要です。ので、支部会員の皆様のご協力が不可欠です。ご協力を宜しくお願いします。

さて、新型コロナウイルス感染症のため以前と同様の実施が難しかった緑陰セミナーや冰雪セミナーなどの支部行事も 2024 年からは、適切な感染症対策は必要とはいえ新型コロナウイルス以前とほぼ同様に実施できます。この原稿を書いているのは 2024 年度の緑陰セミナーに参加した後です。今年の緑陰セミナーには大学や研究分野の異なる大勢の学生が参加しており、活発に交流していました。今回参加して、このような支部事業を通じて支部活動が活発になるのではと期待がもてました。

一方、本部・支部ともに予算状況はそれほど良くありません。そのため、各種支部事業を担当される方にはご不便をおかけしている状況です。私が支部に入れて頂いたころは、出版事業が大きな収入源で予算は潤沢でしたが、現在はこの事業からの収入は見込めません。新型コロナウイルス感染症による制約が無くなり、これから支部を活性化するためには予算状況を改善する新たな施策が必要です。皆様、特に若い会員の皆様からの提案をお

待ちしています。

最後に、北海道支部は日本分析化学会にある 7 つの支部の中で最も規模の小さな支部ですが、支部活動(支部会やセミナー)は他の支部と遜色ありません。ひとえに、寒く厳しい気候に反して、支部会員個々の活性の高さによるものと思っています。少子高齢化のため日本にある多くの学協会では、

会員減少が避けられない状況になっており、本支部の会員についても同様の状況です。人的・経済的に私が支部に入った頃と比較して厳しい状況になっています。北海道支部会員の皆様のご協力により困難な状況を打破して行きたいと考えております。何卒宜しくお願い致します。(さかいり・まさとし)



2024 年 北海道地区化学教育研究協議会

本会は日本化学会北海道支部化学教育研究協議会により準備運営され、日本化学会および日本分析化学会両北海道支部から支援されている行事です。昭和 27 年から開催され、今年で 72 年目となります。化学教育に関する特別講演のほか、小中高校大学で化学教育に携わっている先生の提言が行われます。

一昨年度はコロナウイルス感染拡大の影響により中止、昨年度は Zoom によるオンラインでの開催となりましたが、本年度は対面形式を基本としつつ、オンラインでの参加も可能とするハイブリッド開催に向けて準備を進めています。また懇親会も開催予定となっております。多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

主催 日本化学会北海道支部、日本分析化学会北海道支部、日本化学会教育・普及部門

後援(依頼予定) 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道小学校理科研究会、北海道中学校理科教育研究会、北海道高等学校理科研究会

日時 2024 年 11 月 9 日(土) 10:00~16:30

会場 北海道教育大学札幌駅前サテライト (札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 sapporo55 4 階)

開催方法 対面形式及び Zoom を用いた遠隔による実施(ウェビナー)のハイブリッド開催を予定

協議主題 「理科(化学)教育における小・中・高・大学での取り組み」

特別講演 演題 未定

講師 真井克子先生(文部科学省の教科調査官)

提言 : 小学校、中学校、高等学校および大学の各教員等による協議主題に関する提言

自由討論 : 「小・中・高・大学での研究実践と課題に関する討論」(1 時間程度)

参加費 : 無料 参加費 無料 懇親会費(希望者) 4,500 円を予定

(五修堂 札幌市中央区南 1 条東 2 丁目)

連絡先 〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目

北海道大学大学院工学研究院材料科学部門 坂入 正敏

TEL 011-706-7111, E-mail address msakairi@eng.hokudai.ac.jp

申込方法 電子メールか Google フォーム(アドレス未定)で申し込みください。名簿作成の関係で 10 月 30 日(水)締切としますが、協議会につきましては「当日参加」も可能です。

(北海道大学大学院工学研究院・石田晃彦)

2024 年 公開セミナー

今年度のセミナーについては、内容、日程等の詳細が決まり次第、メール配信等でお知らせいたします。

これまでの終了行事報告

第 59 回 氷雪セミナー

日本分析化学会北海道支部主催の第 59 回氷雪セミナーが 2024 年 1 月 6 日（土）に開催されました。今回のテーマは「レーザーを用いた分析化学」で、4 件の講演が行われ、22 名の支部会員が参加しました。



前回の第 58 回氷雪セミナー（2023 年 1 月）に続き、今回も対面形式での開催となりました。会場は千歳市のホテルグランテラス千歳で、年明け早々に発生した能登半島地震や羽田空港地上衝突事故などの影響もありましたが、何とか開催にこぎつけました。

1 件目の講演は、広島大学大学院先進理工系科学研究科の石坂昌司先生による「光ピンセットを用いたエアロゾルと雲の研究」でした。石坂先生は北海道大学大学院理学研究院の助教時代にエアロゾルのレーザートラップの研究を開始され、現在に至るまでこの分野をリードされています。2010 年に空気中の水滴を光ピンセットで初めて捕捉することに成功し、その後も雲の研究に応用されています。参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。

2 件目の講演は、北見工業大学工学部の大津直史先生による「金属材料×表面分析×細胞培養 一分野横断型研究によるインプラント材料開発」でした。大津先生は医療材料の創製とレーザー誘起プラズマによる金属材料表面の加工について研究を展開されています。研究内容だけでなく、共用設備センターの運営についても話があり、参加者は興味深く聴講しました。

3 件目の講演は、日産化学株式会社物質科学研究所の近間克己先生による「企業における分析化学研究について」でした。日産化学株式会社における最先端の分析技術や解析方法について紹介され、特に共振ラマン測定や和周波発生分光法、XAFS などの先端的な計測にも関心が寄せられました。学生参加者も多く、企業における分析化学研究の進め方について理解を深める貴重な機会となりました。

4 件目の講演は、公立千歳科学技術大学大学院理工学研究科の木村廣美先生による「赤外分光法とラマン分光法による生体組織の計測・解析」でした。木村先生は生体材料の振動分光イメージングを通じて、硬組織や軟組織の分析方法やその標準化について紹介されました。参加者はその重要性について深く理解することができました。

各講演後には活発な質疑応答が行われ、第 59 回氷雪セミナーは盛会のうちに終了しました。講師の先生方や参加者の皆様に感謝申し上げます。懇親会では、参加者同士が交流を深め、熱い議論が夜遅くまで続きました。次回の第 60 回氷雪セミナーも楽しみにしています。

（北海道大学大学院理学研究院・上野貢生）

化学系学協会北海道支部 2024 年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部 2024 年冬季研究発表会（共催：石油学会・日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会の各北海道支部）が、2024 年 1 月 23 日（火）・24 日（水）の両日、北海道大学学術交流会館にて開催されました。今回よりコロナ以前と同様に、口頭発表とポスター発表は対面形式とし、さらに 4 年ぶりに懇親会も実施されました。



新型コロナウイルス感染症の位置付けが 5 類感染症となり、感染対策が個人の判断となる中、2024 年冬季研究発表会は、特別講演を含む口頭発表およびポスター発表ともに、全て対面での形式で開催されました。今回、312 名のご参加と 13 社（機関）のご協賛をいただき、発表会は盛況のうちに終了しました。当日は、計 131 件の一般講演（口頭発表 80 件、ポスター発表 51 件）、1 件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や討論が交わされました。特別講演には、鳥取大学大学院の片田直伸先生をお招きし、「副原料を消費しないプラスチック再資源化：酸型ゼオライトによる形状選択的ポリオレフィン分解」と題して、ご講演いただきました。

例年通り、学生の講演に対して優秀講演賞が選定され、2024 年 1 月 31 日（水）12 時 10 分よりオンライン形式（Zoom）《一般公開・ログイン不要》にて授賞式が行われ、受賞者へ表彰状が授与されました（口頭発表 7 件、ポスター発表 5 件）。なお、ポスター発表部門と口頭発表部門の最優秀講演賞に対して、それぞれ Chemistry Letters Young Researcher Award と BCSJ Award が授与されました。これは、協賛団体の一つである日本化学会が冠賞として授与するものであり、表彰状のアクリルフレームにくわえて、副賞として、それぞれ Chemistry Letters と BCSJ (Bulletin of the Chemical Society of Japan) 電子版の 1 年間フリーアクセス権があたえられました。さらに今回は、4 年ぶりとなる懇親会が発表会場横の「カフェでごはん 北大正門」にて開催され、参加者同士の交流が行われました。

会場内では、この日のために綿密に議論や練習を重ねたことが伺える素晴らしい発表に加え、質疑応答を積極的に行う学生の姿が見られました。また face-to-face で行われたポスター発表会場においても、発表者と質問者の間で活発な質疑応答が交わされており、コロナ禍で行われていたオンライン開催にはない、にぎやかで活気にあふれた雰囲気となっておりました。このように、コロナ以前と同様の開催となりましたが、実行委員による運営は特に問題もなく、滞りなく実施されていました。また今回も、要旨集の電子化、参加申込の Web 登録、プログラム集の廃止が踏襲され、経費削減と実行委員の負担が軽減されました。

今年の冬季研において、全体の発表件数に占める「分析化学・センサー」関連の講演件数は 15% (20 件) となり、昨年度 14% (19 件) より微増しました。今後も、冬季研の運営にご理解いただくとともに、積極的な参加と発表に、ご協力をお願い申し上げます。

（酪農学園大学農食環境学群・中谷暢丈）

2024 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部主催、日本分析化学会北海道支部ほか共催で、2024 年夏季研究発表会を、7 月 20 日土曜日に北見工業大学で実施しました。

一般講演 72 件、特別講演 2 件がありました。参加者は 108 名でした。

特別講演では、北見工業大学大学院工学研究科・三浦則明先生による「望遠鏡にメガネをかける話 ―太陽観測用補償光学系の開発―」、日本化学会会長、京都大学大学院薬学系研究科・丸岡啓二先生による「不斉有機分子触媒を用いる嵩高いアミノ酸、ペプチド類の高効率合成」のご発表がありました。特別講演でも北見市民の一般参加も含めて大勢の参加者があり、学生からの質問もあり盛況でした。ご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。来年の発表会は苫小牧で開催されます。多くのご参加をお待ち申し上げます。

(北見工業大学・宇都正幸)

第 40 回 分析化学緑陰セミナー



第 40 回分析化学会緑陰セミナーが、2024 年 7 月 13 日（土）、14 日（日）に沼田町のほろしん温泉ほたる館で開催されました。昨年度に引き続き、本年度も人数制限をしないオンサイト開催となりました。（紙面の都合上、セミナーの様子の写真は 7 ページにも掲載）

今年度は、「分析化学と地球・環境・生命・経済」と題して 3 件の招待講演が行われました。また、22 件の学生によるポスター発表が行われ、参加者数 45 名（招待講演者含む）の規模で開催されました。

1 件目の招待講演では、一般社団法人 自然環境・科学技術研究所(RINEST) 所長の中嶋悟先生から、「自然環境の聴診器の開発と自然環境変化予測」という題目でご講演いただきました。自然環境医学という新しい学問分野の開拓に向けた先生の歩みをご講演いただきました。2 件目の招待講演では、国立環境研究所の生野雄大博士から、「マイクロ・ナノプラスチックの劣化に着目した生体影響評価と分析における課題」という題目でご講演いただきました。環境中のマイクロプラスチック研究の最前線のお話や、分析化学的な課題についてご教授いただきました。3 件目の招待講演では、一般財団法人 日本気象協会の丸山大貴氏から、「ビジネスにおける分析の立ち位置」という題目でご講演いただきました。分析化学でもよく扱う波形データの解析ノウハウがビジネスの世界にも活かされているとの興味深いご講演が行われました。

学生による 22 件のポスター発表では、発表者を 11 件ずつの A 組、B 組に分けたうえで、40 分ずつのコアタイムを設けて質疑応答が行われま

した。ポスター発表では招待講演者・一般参加者による審査を行い、最も多くの得点を獲得した北大院総合化学・菊知龍哉さん、

北大院工・北林里佳子さんに優秀ポスター賞を授与しました。審査にご協力いただいた先生方には深く御礼申し上げます。また、コアタイムとは別に学生参加者がポスターの見た目を評価し相互投票する時間を設けました。ポスターを評価する視点をもつことが、自分のポスターを改善させるうえでもよい経験になったのではないのでしょうか。最も多くの票を獲得した北大院工・進士絢香さんには、ポスター特別賞が授与されました。これらの受賞者の皆さんには心よりお祝い申し上げます。これを励みにより一層科学に邁進されることが期待されます。残念ながら受賞に至らなかった学生の皆さんも、招待講演や相互審査で大いに刺激を受け、今後の活動に活かしていただけると世話人として幸甚に存じます。

13 日の夜には情報交換会・懇親会を行いました。招待講演者の先生方も交え、参加者の皆さんで交流を深める様子が見られました。また、会場となったほろしん温泉ほたる館は名前の通りホ



左から進士さん（ポスター特別賞）、北林さん（優秀ポスター賞）、菊知さん（優秀ポスター賞）。

タルの飼育にも力を入れており、当日は天候にも恵まれ絶好のホタル観賞日和となりました。多くの参加者の皆さんがホタル観賞や温泉、各部屋での2次会を堪能されていたように思います。

恥ずかしながら緑陰セミナーの参加経験に乏しく、新型コロナウイルス蔓延による参加需要への影響が読めない中、不安な気持ちで運営を進めておりましたが、参加者の皆様のご協力で大変有意義なセミナーにできたと思います。来年度も多くの皆様に緑陰セミナーにご参加いただけることを期待しております。

の影響が読めない中、不安な気持ちで運営を進めておりましたが、参加者の皆様のご協力で大変有意義なセミナーにできたと思います。来年度も多くの皆様に緑陰セミナーにご参加いただけることを期待しております。

(北海道大学大学院工学研究院・中屋佑紀)

2024年度 北海道支部事業計画

開催日	事業名	開催地	担当
5月2日(☒)	第1回幹事会(オンライン)	札幌	支部長
7月13・14日(土・日)	第40回分析化学緑陰セミナー	沼田町	中屋佑紀
7月20日(土)	2024年夏季研究発表会	北見	宇都正幸
7月中旬*	支部ニュース第69号	-	中屋佑紀 青柳直樹
7月26・27日**	若手交流事業(九州支部へ派遣)		
8月上旬～	2024年度役員候補者選考委員選挙	-	支部長
9月中旬	2024年度役員候補者選考委員会	札幌	支部長
10月上旬	第2回幹事会(オンライン)	札幌	支部長
10月上旬	2024年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2023年度北海道分析化学各賞受賞者選考委員会		
11月予定	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	石田晃彦
11月予定	2024年度公開セミナー	旭川	堺井亮介
12月中旬	支部ニュース第70号	-	中屋佑紀 青柳直樹
1月上旬	第60回氷雪セミナー	未定	木村・須田廣美
1月中旬	化学系学協会北海道支部2025年冬季研究発表会	札幌	山田幸司
2月下旬	2024年度北海道分析化学各賞授賞式	札幌	支部長
	審議会(第3回幹事会)		

*支部ニュース69号は不備により例年より遅れての発送となりました。

**開催地の交通の便が悪いことから、今年度の派遣は見合わせとなりました。

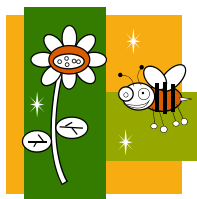
2024 年度 支部役員

支部長	坂入正敏(北海道大学)
副支部長	南 尚嗣(北見工業大学) 木村・須田廣美(公立千歳科学技術大学)
庶務幹事	佐藤 久(北海道大学) 谷 博文(北海道教育大学)
会計幹事	山田幸司(北海道大学) 真栄城正寿(北海道大学)
監事	渡慶次 学(北海道大学) 蠣崎悌司(北海道教育大学)

ほかに、参与 11 名・幹事 40 名

2023 年度 会計報告の概要

収入	単位 (円)	支出	単位 (円)
支部費	720,100	臨時雇賃金	240,000
印税収入	52,129	旅費交通費	61,800
受取利息	24	会議費	2,764
収入合計(A)	772,253	通信運搬費	45,352
当期収支差額(A-B)	△74,161	消耗品費	55,232
		印刷製本費	34,100
		支払負担金	2,035
		支払助成金	180,000
		内部支払助成金	148,791
		表彰費	54,640
		雑費	550
		支出合計(B)	846,414



第 40 回分析化学緑陰セミナーの集合写真。



第 40 回分析化学緑陰セミナーの
情報交換会・懇親会の様子。

支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が理事会で認められたほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。

【新入会のみなさん】 ○正会員 2 名 学生会員 7 名 (入会順・敬称略)

正会員: 比留間貴久(北海道科学大学)、

竹内弥加(北海道警察旭川方面本部)

学生会員: 黒瀬翔大、熊田慶斗、石丸北都、平田結心(旭川工業高等専門学校)

島川幸子(北海道大学大学院環境科学院)

斉藤 潤、永瀬 望(北海道大学大学院総合化学院)

編集後記



支部ニュース第 69 号をお届けいたします。まずは、夏の支部ニュースの送付が例年よりも遅れましたことを深くお詫び申し上げます。また、ご多忙の中、短い執筆期限にも関わらずご執筆頂きました坂入支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。本号から、中屋佑紀(北海道大学大学院工学研究院、再任)と、青柳直樹(北海道立衛生研究所、新任)の二人体制で編集を行なっています。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためハイブリッド形

式での開催となっていた行事も完全対面形式で再開され、本稿でも活発に会員の交流が行われた旨が多く報告されました。北海道支部の活動がますます活発になりますようにニュースを通じて貢献したいと思います。今回、新入会の皆様を迎え、今後も益々活発な支部活動となるように尽力して参りたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

(編集委員 : 中屋佑紀・青柳直樹)

公益社団法人 日本分析化学会北海道支部事務局

札幌市北区北 13 条西 8 丁目 1

北海道大学大学院工学研究院内 支部長 坂入正敏

TEL 011-706-7111

E-mail jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

北海道支部ニュース 第69号

編集・発行

公益社団法人

日本分析化学会北海道支部

発行日

2024 年 8 月 1 日